グローバル・スタディ科　授業実践報告

単元名　道案内

令和４年９月２２日（木）第２校時
授業実践　第５学年１組

≪本時のねらい≫
・道案内をするために工夫して情報を発信している。【知識・技能】

深い学びポイント

１　つかむ	２　見通す	３　自力	４　協働	５　練り上げ	６　メタ認知

≪授業展開の工夫≫
児童が、プログラミングの学習において、自分に合った学習形態で、個々に道案内の表現を繰り返し試行すれば、

≪児童の変容≫
主体的に学習を進めたり、振り返りをしたりすることができ、様々な場面での道案内の表現を考えることで理解が深まり表現力が高まるなど、「深い学び」が実現されるであろう。

深い学びに到達させる手立て１

自分に合った学習形態を、自ら選択できるようにする。

自分の力でできそうだから、一人でじっくり取り組みたい。

わからないときにすぐ相談できるよう、友達と一緒に考えたい。

先生に教えてもらったり、考えを確認したりしながら取り組みたい。

課題の提示と同時に、今回は、３種類の取組方法も伝えた。自分が取り組みやすい学習形態を自ら選択し、主体的に課題に取り組むことができた。「自分の習得度に合った」学習形態とするためには、支援が必要である。

深い学びに到達させる手立て 2

自分で学習を進めたり、振り返ったりし、学習方法を調整する。

振り返りシートを共同編集にて作成することによって、他者の意見から、自分の学習を調整することができた。授業内でも、紙で学習を進める児童、友だちに相談しながら学習をする児童、一人で集中して行うなど、自分に合う学習を進めることで、個別最適化を図ることができた。

深い学びに到達した姿

主体的に学習を進め、試行錯誤することにより、最短距離で親切な道案内を英語ですることができ、思考の過程で、ＩＣＴを活用して、自分の考えを具現化し、英語で伝えることができた。

指 導 講 評

教育研究所　主任指導主事　片山　賢 先生

○やってみて、うまくいかないことで試行錯誤することに価値がある。粘り強く試行錯誤する姿があった。
○毎時間の振り返りを共同編集で行っており、友達の書き込みから自らの学びに改めて気づく児童がいた。また、振り返りの積み重ねがあるため、自らの伸びを確かめることもできた。
○個別最適の授業づくりでは、目的・場面・状況を整えることが必要である。今回よくできていた。
○学習方法の個別化は、児童それぞれ学習している内容が違うため、全員のゴールを同じにすること、学習方法を自ら調整しながら学んだか、ということが大切になる。よく配慮がなされていた。
●めあてを複線化したり、まとめを複線化したりするなど、さらに実践を工夫していくとよい
●グループとペアの学習について、子どもの学びがどの程度なされたか、まとめや次の時間にしっかり見取っていくことが大切である。
●全体での発表をより楽しむために、目的地を伝えず、クイズ形式にする形で発表する方法もある。
●個別最適化された学びのまとめ方について、今後も実践を積み重ねてほしい。

成果と課題

◎学習形態を自分で選択できるようにしたことで、様々な試行錯誤が生まれた。
△自力や、協働で授業を進めることにより単元のまとめができるため、最後にクラスでまとめる必要はない。スタート地点とプロセスのみ伝え、どこにたどり着くかを示し、別の視点からまとめをするなどの工夫をしたい。
△協働する相手が「気の合う児童」であり学習レベルに差があると、進度にばらつきがでる。日ごろからよりよい教え合いの組み合わせを取り入れ、偏りなく協働学習ができるようにしていく。